

第 18 回 高大連携協議会(機械系)議事録

日時：令和 4 年 12 月 16 日(金) 14:30～16:00

会場：宮崎大学工学部 A棟 A203 大会議室

出席者(敬称略・順不同)：

〈工業高校〉

今藤 智輝(延岡工業)、福島 博明(日向工業)、永野 雄作(佐土原)、園木 幸治(都城工業)

高妻 智仁(小林秀峰)、黒木 慎二(日南振徳)、中城 清治(宮崎工業)

〈宮崎大学〉

申 炳 録、鄧 鋼、川末 紀功仁、河村 隆介、大西 修

盆子原 康博、山子 剛、宮内 優、古池 仁暢、長瀬 慶紀

進行:申 炳録(宮崎大学)

記録:中城 清治(宮崎工業)

協議内容

担当

議事に先立ち、出会者の自己紹介を行い、配布資料を確認した。

申・全員

(1) 高校側状況報告

今年度の高校 3 年生、令和 4 年 12 月時点における進路決定状況について、各高校から以下のとおり報告があった。なお、大学入学前教育として、ほぼ全ての高校が選択授業で数学・物理などを履修させて対応しているが、深い内容まで進めることが難しい状況であるとの報告もあげられた。

延岡工業：昨年からマイスター・ハイスクールの指定を受けており、その一環で小学生対象ものづくり教室を開催し、魅力発信に努めた。また、1 年生の企業見学、2 年生のインターンシップなどで進路意識を高めるようにしている。就職 32 名(うち県内 10 名)、進学 7 名(うち私立 4 大 2 名)となっている。また、今年度新設されたエンL a b (3D プリンタ実習室)での実習も始まっている。

日向工業：1 学年 120 名定員に 103 名在籍、定員割れの状況にあり、地域に良いイメージを与えて受験希望者を増やしていきたい。進路状況は就職 30 名(うち県内 24 名)、進学 8 名(うち工業系 4 大 1 名)となっている。

佐土原：電子機械科 80 名で、うち 50 名が就職内定しており、県内・県外の就職数がほぼ同数である。進学者のうち 2 名が機械知能工学コースに合格をいただいた。

また、共通テストを希望者に受験させるなど、入学前教育の一環として取り組んでいる。工業高校生のためのインターンシップに 3 年生 4 名・2 年生 4 名が参加し大学の研究の一端を学ばせていただきありがたかった。来年も是非開催してほしい。

宮崎工業：機械科・生産システム科の就職合格者はそれぞれ 18 名・25 名、進学合格者は 18 名・12 名である。なお県内就職の割合は 2 学科合わせて約 4 割である。総合型選抜については準備が追いついてない状況にある。

都城工業：機械科・情報制御システム科、併せて就職が県内 14 名・県外 35 名で県外就職が多い。進学は 19 名。成績上位者が企業内学園生への就職に流れている。総合型選抜について運動部活生が不利になることは無いのか気がかりである。

また、九州地区工業高校校長会で工業高校機械系への受験生が減少傾向にあるとして危惧している。

小林秀峰：今年は新入生が 34 名と定員割れして厳しい状況にある。進路状況は就職は県内 9 名・県外 15 名と今年は県外志向で、進学は 8 名であった。大学進学はスポーツでの進

中城
各校教諭

【機密性2(関係者限り)】

<p>学者が多い。大学入学前教育として選択科目の他に、個別対応で行っているが、なかなか追いつかない状況である。</p> <p>日南振徳：地域の少子化や宮崎市内校への流出などで、在校生は各学年定員割れ（30名前後）で推移している。就職は県内が15名・県外が12名と県内が多くなった。進学4名はスポーツ進学が主で、3年ほど国立大学への進学者がいない。</p> <p>(2)大学側状況報告</p> <p>改組して2年目、順調に進んでいる。1年生は仮配属（機械プログラム）となっていて、2年進級時にコース変更もあり得るが、変更希望者はあまりいない。機械“知能”工学ということで、情報系など広い視野の研究が出来るとあって、機械知能工学コースは人気が高い。コロナの影響か、コロナ禍に入学した1・2年生は計画能力・行動能力が低いように感じる。なお、講義など最近では対面授業に戻り、マスク以外は通常に戻りつつある。</p> <p>学部生55名のうち34名が大学院への進学を希望しており、嬉しい状況である。また、就職を希望した学生18名についても全員、大手企業に内定するなど順調である。そして大学院生17名も大手企業に内定している。機械系の求人状況は高校同様、非常に好調である。また、今年の就職活動状況はコロナ禍でオンライン面接が増えた関係で、これまで余り繋がり無かったような大手企業への内定も勝ち取るなど、良い傾向が見られる。受験の早期化や長期休業を使ったインターンシップなども増えている。</p> <p>総合選抜になって2年目だが、入学前教育について、合格者に数学・物理の添削課題を与えているが、数学(微積)の正答率が70%程度の生徒が10名(／40名)など厳しい面も見える。物理も7割前後の正答率である。また英語についてはTOEICの問題集を活用してテストに取り組ませている。</p> <p>(3)今後の高大連携について</p> <p>工業高校生のためのインターンシップを8/17からの3日間開催し、5つの講座に高校生9名の参加があった。定員が10名だったが、可能であればもう定員を申し少し増やして欲しい。また、この時期を7月末～8月上旬あたりに早めることは出来ないか。3日間で開催しているが、レポート作成など内容を精選することによって2日間でも可能ではないか。遠方の高校生が木花まで通うのが難しいのだが、1日減ると参加しやすくなるのではないか。なお、8月上旬には大学全体のオープンキャンパスも開催されるので、時期の検討は難しそうである。高校生達にはオープンキャンパスにも是非参加してもらい、学内の様子などを感じて欲しい。</p> <p>大学生の高校でのインターンシップ（スクールトライアル）があれば是非参加させたい。次年度は県教委との確認を進めて、参加者を募りたい。高校としても教員志望者を増やすためにも是非受け入れたい。</p> <p>(4)今後の入試制度について</p> <p>宮崎大学としては様々な入試制度があるが、機械知能プログラムでは一般入試の前期・後期試験と総合型選抜がある。なお、アドミッションポリシーについては工学部に関しては特に変更はない。</p> <p>なお、令和7年度入試から共通テストに教科・情報が入ってくる。また、新しい推薦入試制度も検討中で間もなく発表される予定である。</p>	<p>中城 鄧、 各教員</p> <p>申 各校教諭 各教員</p> <p>申 各校教諭 各教員</p> <p>盆子原</p>
--	---

<p>A0 入試や総合型選抜で入学した工業高校出身者に関して、4 年在学生は 9 名全員卒論着手中、3 年生 8 名中 2 名はやや力不足、2 年生は 5 名いるが機械知能プログラムにはいない、そして 1 年生 5 名中 2 名は優秀である。</p> <p>(5)その他 高校定員割れの問題が挙げられていたが、女子に興味を持たせる手立てやカリキュラムを考えてみてはどうか。</p>	申 川末
---	---------



第 18 回 高大連携協議会(機械系)の様子 (2022 年 12 月 16 日 宮崎大学工学部)

協議会の趣旨 (2006. 10. 26 第 1 回高大連携協議会(機械系)にて趣旨説明あり)

- ・ 高校と大学の専門分野(機械系)のカリキュラムについて、相互理解を深める。
- ・ 教育プログラム全体にわたり連携して、教育目標の実現に資する。
- ・ これらを通して、中等・高等教育に対する地域社会の期待に応える。